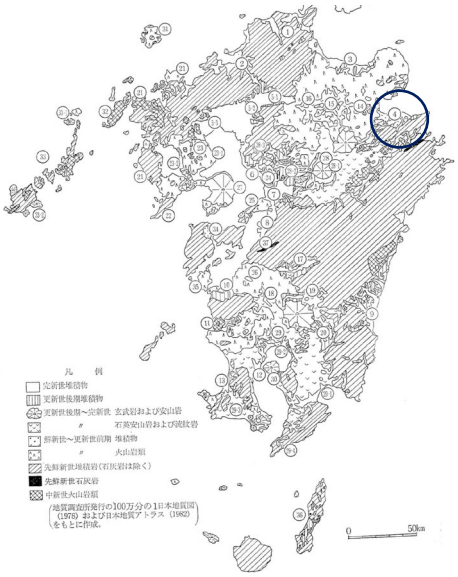
4.大分平野



地形・地質

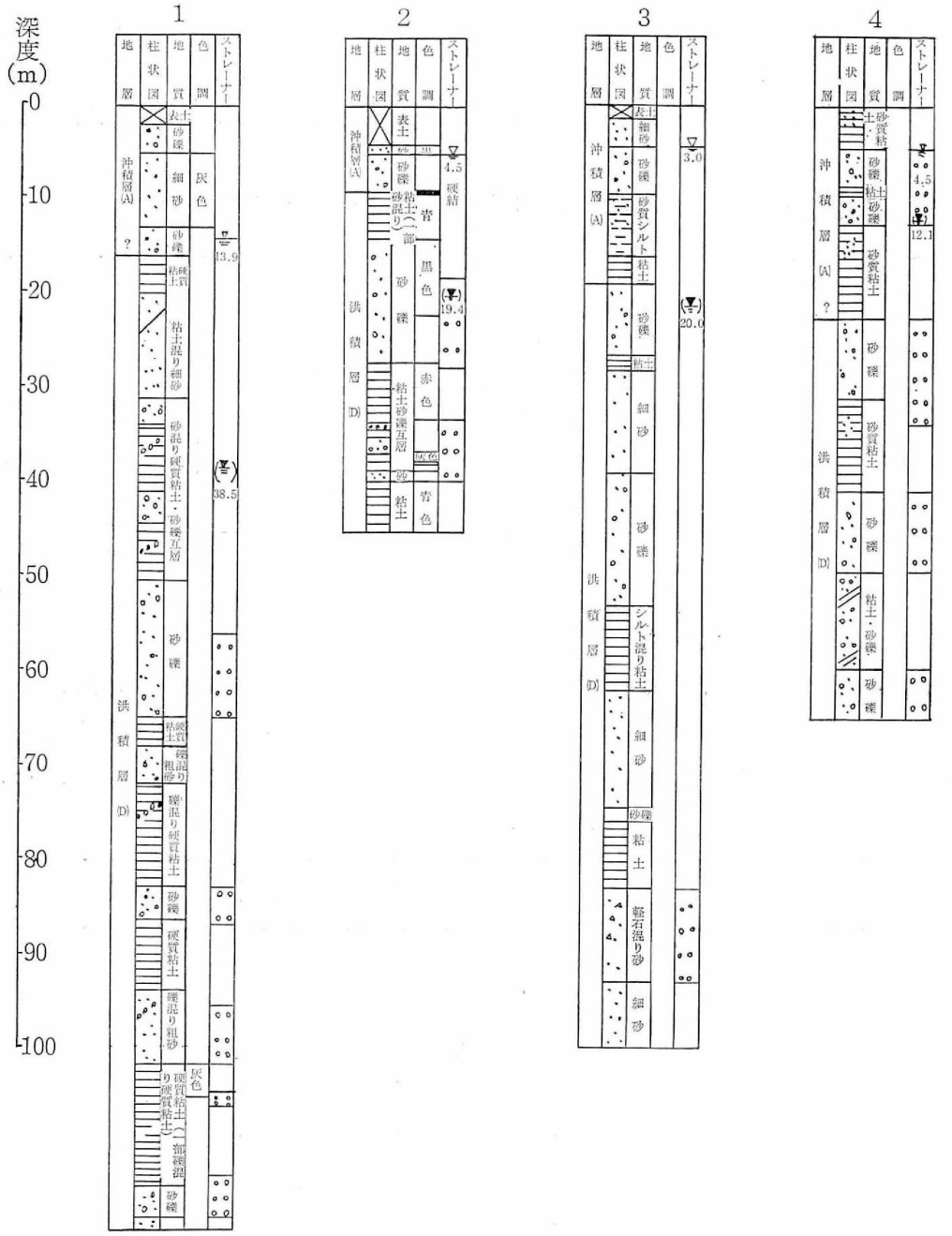
大分平野は丘陵，段丘および沖積面からなります。丘陵の主体をなす地層は中新世の碩南層群と更新世前期～中期の大分層群からなります。これらの地層は浸食されて６段の段丘面をのせています。

大分平野の地質層序表

丹生台地				関東地方		ヨーロッパの氷期区分
層序			地形面	層序	地形面	
九重層群		オレンジローム 旧期沖積層	野間砂礫層			
		丹川砂礫層	丹川面	立川ローム 立川砂礫層	立川面	Würm
		延命寺砂礫層	延命寺面			
	城原層	一木凝灰岩	城原面	武蔵野ローム 武蔵野・山手砂礫層	武蔵野面	
		岡泥層	岡面	下末吉ローム 下末吉層 姉ヶ崎層	下末吉面	Riss / Würm
		小原台砂礫層	丹生面	多摩ローム	多摩面	Riss
	大在層	丹生泥層	大在面	地蔵堂層		Mindel / Riss
		志村砂礫層				
				笠森層		Mindel
大分層群	鶴崎層	高城互層		佐貫層 長浜層		Günz / Mindel
		真木砂礫層				
	滝尾層			三浦層群		Günz Donau / Günz

地下水

平野地下には稼行の対象とならない程度の天然ガスが胚胎しているため，水質は一般に良質でありません。井戸は上位の沖積層や大分層群から取水しています。



代表的な井戸の地質住状図

出典　日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

https://jagh.jp/activities/groundwater_database/（日本地下水学会）